

第34回日本環境感染学会総会・学術集会 開催のお知らせ（第4報）

学会のテーマは、「皆で AMR（やくざいたいせい）時代に臨む」で、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌など新たな AMR が問題となっている時代において、多職種で立ち向かっていこうという意気込みを表しました。内容は、「感染制御」を中心に、「チーム医療」、「抗菌薬適正使用」、「手術部位感染対策」など多岐に渡ります。日常、感染制御に携わる医師、看護師、薬剤師、検査技師、その他職種、学生の皆様のご参加をお待ちいたします。

※11月9日（金）より、事前参加登録および宿泊予約をホームページより受け付け開始いたします（事前：10,000円、当日：11,000円）。

ランチョンセミナー事前登録も同時に開始予定ですが、若干遅れる可能性もあります。

今後、全員懇親会の事前登録も開始します（事前1,000円）。

※近日中に大会ホームページへ日程表をアップいたします。

【第34回日本環境感染学会総会・学術集会 開催概要】

1. 会 長：竹末 芳生（兵庫医科大学）
2. 副会長：大友 陽子（東京女子医科大学病院）
3. 事務局長：一木 薫（兵庫医科大学）
4. 会 期：2019年2月22日（金）～23日（土）
5. 会 場：神戸国際展示場・神戸国際会議場・神戸ポートピアホテル
6. 学術プログラム（10月25日現在）

会長講演	22日（金）	僕が目指した感染制御学
副会長講演	23日（土）	私が目指した感染制御
理事長講演	23日（土）	
招請講演	22日（金）	1. Antimicrobial resistance in Asia 2. MRSA control
	23日（土）	3. バイオフィルムによる環境における生存戦略と感染症との関わり
教育講演	22日（金）	1. わかりやすい血流感染の話 2. わかりやすいカビの話
	23日（土）	3. わかりやすいワクチンの話

4. わかりやすい抄録の書き方/発表の仕方：5つの秘伝
5. Early bird, 諸外国における感染制御（仮）
6. Early bird, わかりやすいレジオネラの話：医療機関に潜む感染リスク

シンポジウム 22日（金）

1. 部門の特殊性を踏まえた手指衛生戦略を考える
2. *Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症：新しい治療戦略
3. 地域ネットワークの構築：加算1 & 2連携, 高齢者施設含む
4. ASチームが知っておきたい薬物動態
5. 今一度, 結核を考える
6. ASチームが知っておきたいMRSA治療
7. 尿道留置カテーテル長期留置患者の感染対策と課題
8. SSI対策：ガイドラインの現場での標準化
9. インフルエンザ対策
10. 微生物検査の進歩と日常診療への応用
11. 深在性真菌症対策：多職種による取り組み

23日（土）

12. 感染制御に求められるマネジメント力
13. 感染対策のプロセス, アウトカム指標
14. ASチームが知っておきたい多剤耐性グラム陰性菌の治療
15. 隣のNICUの感染対策を見てみたい

パネルディスカッション

22日（金）

1. 薬剤耐性（AMR）対策からみた地域連携の推進
2. 抗菌薬TDMガイドライン：再改定に向けて始動
3. アウトブレイク時の対応：*Acinetobacter*, CRE, VRE, *C. difficile*
4. 内視鏡の感染管理
5. 診療環境の感染対策ピットフォール：歯科・耳鼻科
6. 感染制御におけるベッドコントロール：個室隔離, 解除について
7. 口腔ケアで感染を予防しよう
8. 感染制御における次世代の育成

23日（土）

9. カルバペネム耐性/カルバペネマーゼ産生 腸内細菌科細菌感染対策
10. AMRのアクションプラン
11. 組織の中でICNはどうあるべきか
12. 多職種の視点から見た環境ラウンド
13. いろんな外科領域におけるSSIとその対策：整形外科, 眼科, 耳鼻科, 脳外科
14. AS活動における薬剤師の役割

ワークショップ

- 22日（金）
1. 環境ラウンド
 2. SSI 予防対策
 3. 施設で行う手指衛生啓発活動
 4. 施設におけるサーベイランスの活用
- 23日（土）
5. 抗菌薬適正使用をどう進める？感染症専門医がいない施設の取組み
 6. 輸入感染症に対する院内感染対策
 7. 多剤耐性菌アウトブレイク

ビデオセッション

- 23日（土）
1. ICT が見ておきたい手技：グラム染色&血培採取
 2. ICT が見ておきたい手技：口腔ケア
 3. ICT が見ておきたい手技：中心静脈（CVC）・末梢挿入型中心静脈カテーテル（PICC）挿入法
 4. ICT が見ておきたい手技：創ケア（予防と治療）
 5. ICT が見ておきたい手技：膿瘍ドレナージ，内視鏡的胆道ドレナージ
 6. ICT が見ておきたい手技：SSI 予防のための術中手技

委員会企画

- 22日（金）
1. 医療環境について考えよう
 2. Joint Commission International (JCI) における感染の予防と管理を学ぼう
 3. 迅速な薬剤耐性菌対策につなげるための基礎を構築する
 4. APIC とのジョイントプログラム：消毒と滅菌に関する最新の知見と課題
 5. 臨床研究・論文作成 Handy tips：仮説設定から解析まで
- 23日（土）
6. 緊急報告 西日本豪雨災害における感染制御支援活動を振り返る：熊本地震の経験は活かされたか
 7. 医療関係者のためのワクチンガイドライン改定版作成コンセンサスミーティング
 8. JHAIS サマリーと事例判定

ジョイント企画

- 22日（金）
1. 救急外来部門における感染対策
 2. 消化器外科 SSI 予防のための周術期管理ガイドライン 2018
 3. 精神科領域から発信する感染対策
 4. 人獣共通感染症と職業感染
 5. どうしてる？私大病院における耐性菌対策

Top10 ペーパー

- 22日（金） 1 Series 1
- 23日（土） 2 Series 2

Keynote lecture

- 22日（金）
 1. 環境浄化の意義と今後の展望
 2. 単回使用器材（SUD）の再製造の展望と課題
 3. 透析室の感染対策
 4. 耐性菌ワンヘルスアプローチ：植物と耐性菌
 5. 耐性菌報告を活かすラウンド法
 6. AMR アクションプラン：抗菌薬ばかりに目をむけないで！
 7. Team STEPPS の感染対策への応用
 8. 外来経口抗菌薬の適正使用
 9. 見直そう輸液調製：感染管理の視点から
 10. 標準的な抗菌薬使用量調査とその評価
 11. 手術時予防抗菌薬の適正使用
 12. 歯科治療における心内膜炎予防
 13. カンジダ血症マネージメント
 14. キャラクターで学ぶ細菌学
 15. B型肝炎：今後の課題
 16. 糖尿病と感染症
- 23日（土）
 17. 手指衛生と手荒れ防止対策
 18. 病院増改築時の感染対策
 19. 病院における給湯給水管理
 20. 感染対策を視野に入れた病院建築
 21. 今問題となっている性感染症：梅毒
 22. 新しい微生物検査：TOF-MS, 遺伝子検査
 23. *Clostridioides (Clostridium) difficile* 感染症に対する新しい治療法：便移植療法を中心に
 24. 消毒薬を科学する：現場でかしこく使うために
 25. 動画を活用したクリーンハンドキャンペーン
 26. 耐性菌の生き残り戦略とその対抗手段

Meet the expert

- 22日（金）
 1. 気道感染での経口抗菌薬は第3世代セフェムも必要 pros vs cons
 2. TDM のピットフォール
 3. 病院清掃のエビデンスとプラクティス
 4. 腹腔ドレーン管理
 5. CDC ガイドライン：環境制御
 6. HIV 感染症の対応

- 23日（土）
7. 敗血症マネージメント
 8. 微生物検査による感染症診断：興味ある症例
 9. それで良いのか血液培養ラウンド
 10. 細菌性髄膜炎の診断と治療
 11. ESBL産生菌による菌血症に対するカルバペネム以外の抗菌薬選択 pros vs cons

第205回ICD講習会

23日（土） 抗菌薬の適正使用

※企画セミナーの番号は変更の可能性があります

7. 事前参加登録：2018年11月9日（金）～2019年1月11日（金）

8. 運営事務局：株式会社メッド

〒701-0114 岡山県倉敷市松島 1075-3

TEL：086-463-5344 FAX：086-463-5345

E-mail：jsipc34@med-gakkai.org

9. 総会ホームページ：URL <http://www.med-gakkai.org/jsipc34/>